

食べたいっ！



短い梅雨が明け、暑い暑い夏がやってきました。暑くても子ども達は元気いっぱい！朝から夕方まで、おおきな木はとってもにぎやかです。

さて、第四回目は、園長からバトンタッチして、私、吉村が「食べたいっ！」と題して、みなさんからいただいた質問の中で多かったテーマ「手づかみ食べ」について書いてみました。お付き合いください。

よく、みなさんから「もう〇〇歳なのにまだ手づかみで」「手づかみじゃなくて、スプーンやフォークを使ってほしい」「いつになったら使えるようになりますか？」という声をいただきます。

手づかみ食べというと、あまり良いイメージがないようですが、手づかみ食べは、食具(箸、スプーンやフォークなど食事の時に私用する道具)を上手に使えるようになるための、大切な通り道なんです。手でぐちゃぐちゃと遊んでいるように見えますが、手のひらや指先で食べ物の硬さや弾力、大きさを確かめています。口の周りが汚れるのは、手と口の距離を測って、うまく口に入れられるように練習しているからです。初めは自分の手の長さや口との距離、食べ物の大きさの感覚もわかりません。手と口でもうまくいかないのも、もちろんいきなり道具を使うのはとても難しいのです。手づかみで食べて、指先や手、距離感をしっかりつかめることで、その後の食具の操作につながっていきます。

おおきな木では「食べたいっ！」を大切に、給食の時間を過ごしています。食べるのが大好きな子ども達。「まんまだよー」「ごはんにしよー」と声をかけると、みんなテーブルに行き、椅子に座ります。そして、給食が目の前になると、目をキラキラさせながら「おいしー」と言ったり、笑顔を見せてくれます。食べ方は、フォークを使う子、フォークと手の両方を使う子、手で食べる子、保育者に口に運んでもらう子、様々です。でも、全員に共通しているのは、みんな「楽しく」給食を食べていることです。手づかみで食べ、ぐちゃぐちゃになりながらも、どの子もとても楽しそうです。

教えるのではなく、子ども達の「食べたいっ！」気持ちを大切に、みなさんと一緒に見守って行きたいと思っています。よろしくお願ひします。